

平成21年度 日本保険学会大会報告
第Ⅱセッション(経済・経営・商学系(2))

「生命保険業の効率性と公平性 —有効競争の観点から—」

2009年10月25日
福岡大学商学部
根本 篤司

【報告内容】

- 1 保険業の現代的課題
- 2 生命保険市場の効率性と有効競争
- 3 逆ザヤの問題と有効競争
- 3 保険金不払い問題と市場成果
- 4 有効競争のあり方をめぐって

保険業の現代的課題

①社会の経済厚生

- 1) 生産の効率性
- 2) 分配の公正性

②分配の公正性を構成する概念

- 1) 報酬の公平性
- 2) 保障の均等性
- 3) 負担の公平性

保険業の現代的課題

③ 保険における公正性

1) 社会保険(強制加入)

保障の均等性、加入者間の負担の公平性を重視

2) 生命保険(任意加入)

任意加入の加入者から構成される保険団体のなかで、保障の均等性、加入者間の負担の公平性を重視(限定的)

④ 保険金不払い問題(支払い漏れ含む)

保険者と加入者の取引関係の公平性が問題
→しかし、公正の概念の客観的規定は困難。

保険業の現代的課題

⑤有効競争の特徴

1) 目的

市場競争の利点と規模の経済性を同時に享受する市場の実現を目的とする

2) 分析手法

種々の競争形態の市場構造の下での、企業の行動(市場行動)を分析し、その行動によって市場がどのような状態にあるのか(市場成果)を評価する

3) 主観的価値判断の影響

完全競争と比べて「曖昧さ」が残る

保険業の現代的課題

⑥わが国の生命保険業

- 1) 監督行政の規制
- 2) 高い参入障壁
- 3) 実質的な製品差別化が困難
- 4) 生命保険会社の多くは逆ザヤによって利差損を抱えており、財務健全化のために種々の経営政策を取っている
- 5) 保険金不払い問題

→有効競争の観点から、生命保険業の効率性と公平性を考察

生命保険市場の効率性と有効競争

①規模の経済性（生産の技術的効率性）

生産物の増加にともなって、長期的な平均費用の低下する現象

②生命保険業の規模の経済性

生命保険会社は、保有契約高の拡大と事業費の改善から費差益を確保

③カルテル料率と規模の経済性

費用構造の優れた、企業規模の大きな生命保険会社は、超過利潤（レント）を享受

生命保険市場の効率性と有効競争

④非価格競争の展開

超過利潤を得る生命保険会社は、生命保険需要を誘引するための広告や販売活動を重視

⑤有効競争としての配当競争

価格の事後調整機能である契約者配当を利用して、保険料支払いの実質的負担を軽減し（間接的な価格競争）、製品差別化を実現

逆ザヤの問題と有効競争

①バブル期以前の生命保険会社の行動

- 1) 貯蓄性の高い保険商品（養老保険、終身保険）の販売
- 2) 保有契約高の拡大にともなって増大する保有資産の運用から含み益や内部留保を形成
- 3) 保有契約高拡大行動と保有資産拡大行動によって、高水準の契約者配当を実現

逆ザヤの問題と有効競争

②現在の生命保険会社の市場行動

- 1) 金融環境の変化による生命保険会社の金融収益の低下（利差損の発生、経営の不安定化）
- 2) 利差損を費差益と死差益で補填し、収益構造の改善を図る
- 3) 生命保険会社の商品政策の変化
（貯蓄性より保障性を重視）
- 4) 費差益の確保を目的として、生命保険会社の規模の経済性の追求はますます重要に

逆ザヤの問題と有効競争

③利差損の解消と配当競争

利差損の解消による財務の健全化を目的として、配当競争は暗黙的・明示的な協調的行動の傾向へ（消極的な配当競争）

④逆ザヤ問題と有効競争

1) 規模の経済性を追求するために保有契約高拡大行動を志向する。

2) 一方で有効競争として期待された契約者配当は価格の事後調整機能に留まる

保険金不払い問題と市場成果

- ①生命保険会社の保険金不払い・支払い漏れ(保険金不払い問題)
 - 1) 本来の趣旨と異なる厳格な告知義務違反の適用
 - 2) 営業職員による不適切な募集行為に従った保険契約について告知義務違反を適用(モラル・ハザード)
 - 3) 保険金支払い査定部門の職員による書類の必要事項の見落とし(ヒューマン・エラー)

保険金不払い問題と市場成果

②生命保険会社の保険金不払い・支払い漏れ

1) 契約者と保険会社について情報が完備された保険市場を想定した場合、契約者の効用と保険会社の利潤を高めるような保険取引が行われる

2) このような市場で、契約者と保険会社は保険料と保険金の交換を行っており、両者の資産水準の均衡するところでは効率的な資源配分が達成される

3) しかし、保険金不払いは、費用としての保険金を保険会社に留めるので、保険取引による効率的な資源配分が歪曲される

保険金不払い問題と市場成果

③ 保険金不払い・支払い漏れの要因

1) このような保険金不払い現象は、保険会社が契約者に対して十分な情報を提供・説明していないことに起因する

2) 保険会社の提供すべき情報

- ・ 変額年金保険など保険商品のリスク
- ・ 保険加入時の告知義務
- ・ 保険金請求の周知徹底
- ・ 保険会社内部の管理体勢

3) 保険取引をめぐって契約者は情報劣位者にある

保険金不払い問題と市場成果

④保険金不払いをめぐる生命保険会社のモラル・ハザード

- 1)モラル・ハザードを、取引相手の行動を監視できない状況で、取引相手の利得最大化行動によって経済的不利益を被ることと定義する
- 2)保険取引めぐる種々の情報は、生命保険会社に偏在している(契約者の監視は困難)
- 3)生命保険会社の財務状況の改善を図るために保険金不払い・支払い漏れが恣意的に行われる限り、生命保険会社のモラル・ハザードと解される

保険金不払い問題と市場成果

⑤ 保険金不払い問題と契約者の公平性

- 1) 保険金不払い問題は、契約者間の保険料負担の不公平をもたらす
- 2) 保険会社と比べて契約者は情報優位な保険市場を想定し、また契約者は低リスクと高リスクのグループに分類されるとする
- 3) このような市場では、各契約者は自身のリスクを認知・理解しているので、高リスクの契約者が自身のリスクを隠して低リスクの契約をしないように保険会社は種々の制約を設けている

保険金不払い問題と市場成果

4) 生命保険契約の制限

- 医的診査、既往歴の告知
- 割高な保険料による加入
- 標準下体保険への加入
- 保険金の減額・不払い
- 保険契約の解除

5)ところが、生命保険会社による保険金不払い・支払い漏れは、本来保険金を受け取ることでできた低リスクの契約者について、モラル・ハザードを誘発する高リスクの契約者とみなした状況に等しい。

保険金不払い問題と市場成果

6)このように本来、保険金を受け取ることでできる低リスクの契約者について保険金不払いを行えば、低リスクの契約者の保険料負担は、適切に保険金を受け取る同じリスクをもつ契約者と比べて、大きく感じる

7)これは同じ契約者の間で、リスクに応じた保険料負担がなされていないので、保険料負担をめぐって契約者のあいだで公平性を損ねている

8)したがって、自身のリスクを知る低リスクの契約者は、当該保険契約を解約するか、あるいは適切な保険料を提示する保険会社の保険購入を志向する。

有効競争のあり方をめぐって

- ①逆ざやの解消を目的とした規模の経済性（効率性）の追求
- ②公正な保険取引による契約者間の不公平性、契約者と保険会社の間不公平性の縮小
- ③生命保険会社の保険商品に対する認識の徹底
（保険商品は主要機能と付随的機能をもつ）
 - 1) 主要機能・・・適切な保険経営による経済的保障の提供
 - 2) 付随的機能・・・保険取引における種々の情報提供など経済的保障の達成を適切に実行するためのサービスの徹底
- ④保険についての適切な認識・理解の啓発

主要参考文献

- ・J.M.Clark, "Competition As a Dynamic Process", The Brookings Institution, 1961 (岸本誠二郎監修(1970)『有効競争の理論』日本生産性本部)
- ・植草益＝井出秀樹＝竹中康治＝堀江明子＝菅久修一(2002)『現代産業組織論』NTT出版
- ・小西唯雄(1975)『反独占政策と有効競争』増補版、有斐閣
- ・————(2001)『産業組織政策』東洋経済新報社
- ・井口富夫(2008)『現代保険業研究の新展開——競争と消費者利益』NTT出版株式会社
- ・石田重森(1975)「生命保険事業における有効競争——わが国の私営生命保険事業に関して——」日本保険学会『保険学雑誌』第471号
- ・石田重森(2008)『保険学のフロンティア』慶應義塾大学出版会
- ・岡村国和(1980)「生命保険事業における有効競争の限界——料率競争をめぐる——」慶應義塾保険学会『保険研究』第32集
- ・近見正彦＝前川寛＝高尾厚＝古瀬政俊＝下和田功(1998)『現代保険学』有斐閣
- ・水島一也(1974)「連載・日本の産業組織・17 生命保険」『季刊中央公論 経営問題』中央公論社
- ・水島一也(2006)『現代保険経済』第8版、千倉書房
- ・宮沢健一(1999)『産業の経済学』第2版、東洋経済新報社
- ・村上雅子(1973)『第6章 社会保障』岡野行秀＝根岸隆『公共経済学』有斐閣